



私にとって 1 番印象に残っていたのは、放射線医学総合研究所への訪問です。今回は、重粒子治療研究部を見学させてもらえることになっていました。重粒子線治療は、日本最先端の放射線治療として、世界各国から注目されています。私は、以前から放射線技師に強い関心を持っていました。そのため、日本国内で最先端の放射線研究を行っている放射線医学総合研究所で働く技師の先生のお話を伺ったり、研究室や治療室を見学させて頂いたり出来ると思うと、ワクワクが止まりませんでした。東京駅から稲毛駅まで約 50 分間電車に乗り、そこから 10 分程歩いたところに放射線医学総合研究所がありました。そこで、担当の方に挨拶をし、新治療研究棟に向かいました。私は、心臓のドキドキが収まらないくらい緊張してしまっていたのですが、担当の方が、「よく、学生の人が見学に来るので、慣れているから気軽にしてくださいよ。」と明るく仰ってくださったので、少し安心しました。

新治療研究棟に着くと、放射線技師の先生が待っていてくださっていました。その先生に、治療室を案内していただきました。治療室には、放射線の治療機器があり、実際にその機器に班の人を乗せて、動かしてもらいました。額に赤い光が当たっていて、乗った本人に聞くと、熱いとか眩しいとかは感じなかったそうです。本来なら、光の当てる場所を短くて 15 分、長くて 30 から 40 分で決めて、治療します。患者さんが疲れないよう、患者さん

は動かさず、機器が動いて、自由に様々な方向から、患者さんに光を当てられるようになっているそうです。患者さんへの思いやりがあらわれていて、感心しました。次に、重粒子の回転ガントリーを見せていただきました。たまたま点検中だったため、普段は見られない回転ガントリーの内部を見ることができました。ホームページで事前に調べた時、小型化に成功したと書いてあったので、てっきり、ベッドくらい大きさだと思っていました。しかし、実物は、まるでクジラくらい大きなサイズでした。これには、私も驚きを隠せませんでした。更に驚くべきことも知りました。これほど大きなガントリーを動かすため、電気代は一ヶ月で約一億円らしいのです。治療効果の高い重粒子線治療があまり普及していないことに疑問を持っていましたが、これが大きな原因であると分かりました。莫大なお金がかかるので、国で運営しないとできないのです。



治療室を1通り見学したあと、会議室に案内され、医師の先生が加わってくださいました。そして、御二方にいくつか質問をさせていただきました。「放射線治療に危険性がありますか」という質問に対し、「それはほぼありません。」と返答がきました。福島原発のこともあり、少し人体に悪い影響を及ぼすのではないかと考えていましたが、それは思い込みと分かって安心しました。また、「やりがいを感じる時はどのような時ですか。」という質問に対し、放射線技師の先生は、「親しくなった人から感謝される時」と答えてくださいました。患者さんと何度も顔を合わせているうちに仲良くなり、その患者さんのガンを自分が放射線治療する。その後、患者さんから「ありがとうございました。」と言われると、とても嬉しいそうです。このように、患者さんと接する機会が多い放射線技師の仕事において、患者さんとのコミュニケーションは、不安を取り除くためにも必要であるとも伺いました。放射線治療の技術以外にも、このような力が身につくと新たに知ることが出来ました。他にも、重粒子線に関する質問や、医師や放射線技師の仕事についての質問をさせていただきました。御二方はどの質問にも、詳しく丁寧に答えてくださり、そのおかげで知識をより深めることが出来ました。質問が終わったあとは、御二方と別れ、担当の方にその他の施設を案内していただき、訪問を終えました。

放射線医学総合研究所を訪問するまでは、放射線技師はどのように働いているのか詳し

く知らなかったし、放射線の知識も曖昧でした。しかし、訪問後は、放射線技師は高齢化が進んでいる社会にとって需要が高い職業であり、患者さんを心身ともに助ける素晴らしい仕事と分かりました。また、重粒子線について知ることで、その他の放射線についても詳しく学んでみたいと感じました。私も将来放射線技師になって、患者さんの役に立てるよう、放射線に関する知識はもちろん、コミュニケーション力を身につけたいです。そのために、普段から相手の話をしっかり聞いた上で、自分の意見も表現できるよう心がけていきたいと思います。

次に印象深いのが、DF.笹川平和財団共催夏季プログラムです。3人の方から、これからの人生に役立つアドバイスをいただきました。その3人が共通して話題にあげていてありました。それはグローバル化社会についてです。以前の私は、正直言ってグローバル化など自分に関係ないと思っていました。日本から出なければ、外国人と接する機会などほとんどないと考えていたからです。しかし、それは間違っていました。交通手段の便利化により国家間の壁がなくなり、進んだグローバル化。日本にいたところで、企業でも大学でも何にでも競争相手は国内にとどまらず、世界の全員なのだと知りました。これを知った私は、今までの自分の考えが甘いものであったと突きつけられた気持ちになりました。そこで、グローバル化に対応できる人間になれるよう、3つのことをこれから意識していきたいと思います。

1つめは、優柔不断な性格を治すことです。私は、ある1人からこんなエピソードを伺いました。昔その人は海外の営業所で働いていて、現地の人達と一緒に仕事をしていました。その際、誰かが案を出したところ、周りの人間はすぐYESかNoをだしていたそうです。つまり、海外では素早い判断力が求められているということです。しかし、日本人は失敗を恐れて判断が遅くなるそうです。これは私によく当てはまります。「大事なのは、失敗から学んで更に良いものをつくりあげること。失敗を恐れてはいけない」私は深い感銘を受けました。この言葉が、失敗を恐れて決断できずにいるというのは馬鹿らしいということに気づかせてくれたのです。

2つめは、日本の歴史、日本の文化を知っておくことです。日本について外国人から聞かれたときに、詳しく答えられず戸惑ってしまったと伺いました。思い返すと、私にも思い当たる節がありました。宮城県は、伊達政宗が有名です。しかし、伊達政宗が具体的に何をしたのか、どんな人物だったのかよく分かりません。地元にはゆかりのある人物なのにです。これでは、外国人に自分の国の歴史を自信をもって教えられません。それに気づき、とてもショックを受けました。気まずい思いをしないよう、日本の歴史の本や、文化財を見るなどして、日本の歴史の知識に自信を持てるようにしたいと強く感じました。

3つめは、プレゼンテーション能力を身につけることです。日本ではプレゼンテーションがそこまで大事ではありませんが、外国では命のような存在とされているらしいです。例えばアメリカの子供たちは3歳の頃から自分でテーマを見つけ、それに対する自分の意見

を発表できるよう訓練されます。それに対し、日本では学生にそのような機会があまり設けられていません。そのため、自分からプレゼンテーションの練習をすることが大切らしいです。日常のなかで自分が思ったことを、家族や友達にプレゼンテーションする。それによって、自己主張力が身につく、プレゼンテーションが上達すると知ったので、ぜひとも実践してみたいです。

今回の東京大学見学会、企業大学訪問で、私はたくさんの素晴らしい体験をさせていただきました。この 2 日間は、進路や将来に対する自らの考え方に大きな影響を与えたと思います。協力してくださった先生方やたくさんの御方のおかげです。ありがとうございました。